

エチオピアのビジネス環境

2012年 7月20日
在エチオピア日本国特命全権大使
岸野博之



1. 問題意識



- ビジネスの対象としてエチオピアをどう見るか？
- 日本企業にとってどこにビジネスチャンスがあるか？
- ビジネスを進める上での制約要因は何か？どうすれば克服できるか？
- ビジネス振興にあたり大使館としてできることは何か？

2. エチオピア概要(国の特色)



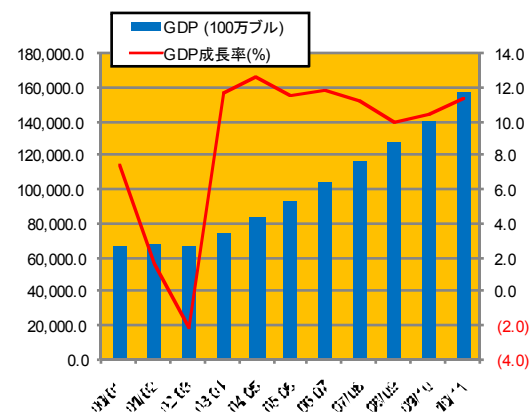
- アフリカ第2の人口(82百万人)
- 高い経済成長率
8年連続二桁成長
新5カ年開発計画(GTP)実施中
- 政治的安定性とリーダーシップ
1991年社会主義政権を打倒、
以来メレス首相が政権運営(5年
に一度総選挙)→内政は安定
治安も比較的良好
- アジスはアフリカ外交の中心地
アフリカ連合(AU)本部等が所
在、大きな外交コミュニティ



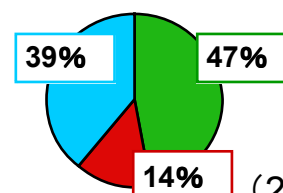
3. 経済構造と成長率



- 高いGDP成長率
2001-10年の年平均
実質成長率は8.8%

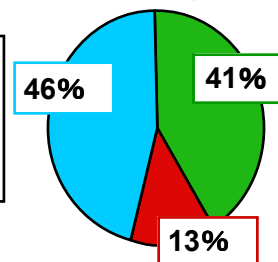


- GDPセクター構成
(2004/05年)



(2010/11年)

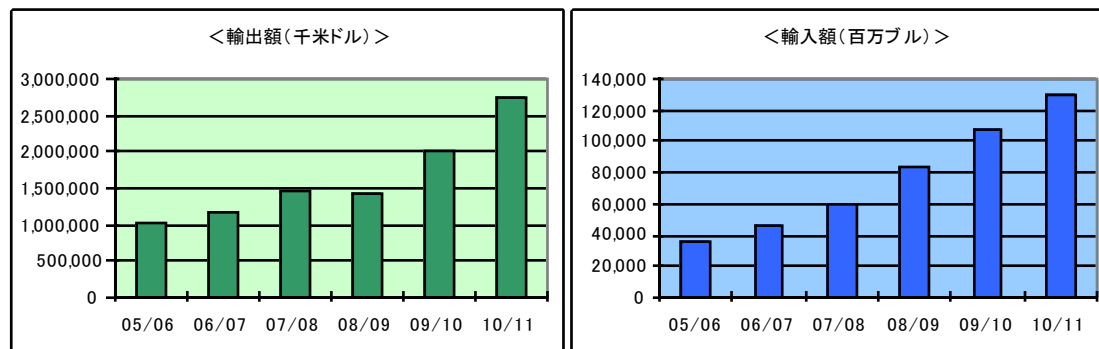
緑：農業
赤：工業
青：サービス業



4. 貿易(輸出入額)



- 過去6年間：輸出は2.7倍、輸入は3.6倍に

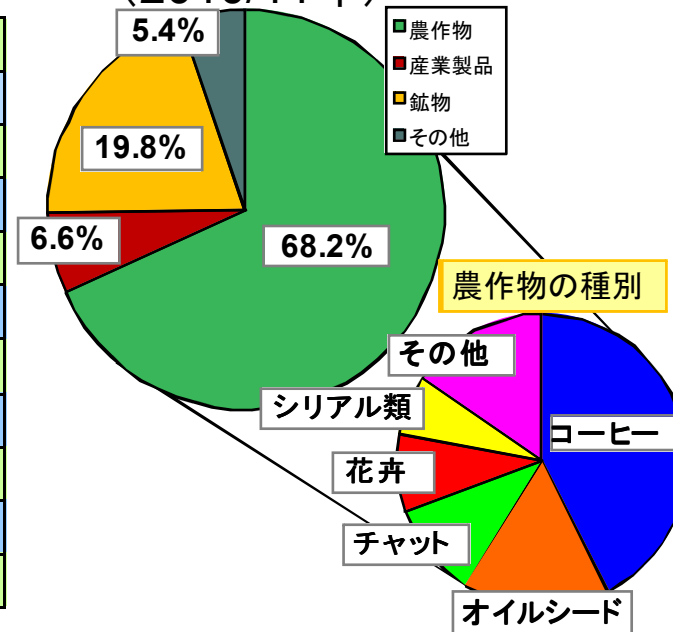


4. 貿易(輸出先・品目)

- 主な輸出先
(2009/10年)

1	独	11.5%
2	中国	9.1%
3	ソマリア	8.2%
4	蘭	6.0%
5	スイス	5.2%
6	スーダン	5.2%
7	サウジ・アラビア	5.0%
8	米国	4.4%
9	伊	3.8%
10	ア首連	2.7%
計		61.1%

- 輸出品目
(2010/11年)

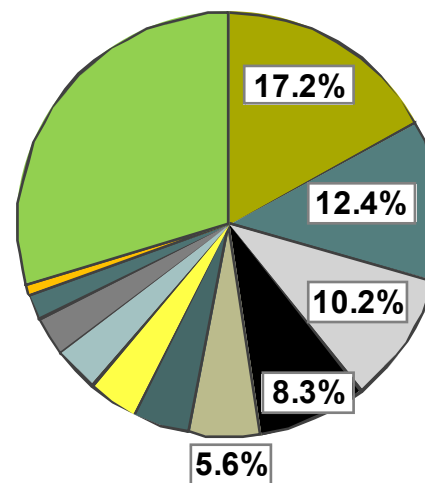


4. 貿易(輸入先・品目)

● 主な輸入先 (2008/09年)

1	中国	24%
2	サウジ・アラビア	12%
3	インド	8%
4	米国	5%
5	イタリア	5%
6	日本	4%
7	ア首連	3%
8	トルコ	3%
9	パキスタン	3%
10	マレーシア	2%
	その他	27%

● 輸入品目 (2010/11年)



- 石油
- 機械・航空機
- 自動車
- 金属
- 電気製品
- 肥料
- 医薬品
- 繊維・衣服類
- 食料・家畜
- ゴム製品
- 紙・紙製品
- その他

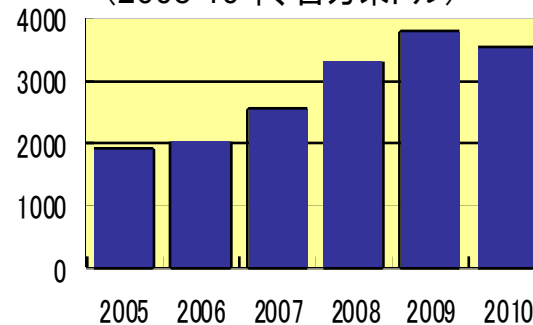
5. 対エチオピア援助



- エチオピアはドナーの寵児、最大のODA受益国の一つ

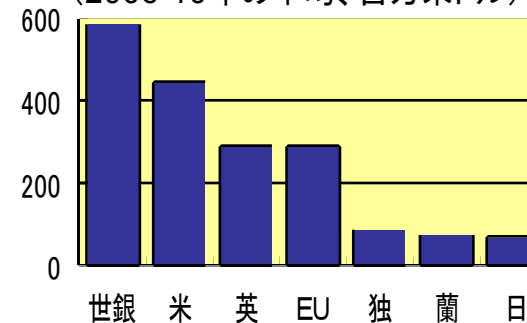
(1) ODA総額

(2005-10年、百万米ドル)



(2) 各ドナーODA額

(2006-10年の平均、百万米ドル)



- 米国ODAの被供与国として第5位、サブサハラでは第1位(2010年)
- 英国ODAの最大の被供与国(2011年)

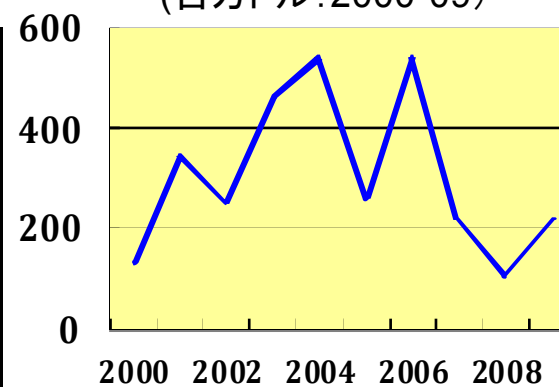
6. 対エチオピア対内投資

- 投資元: トップ5
(千米ドル)

1	スーダン	2,923,527
2	米国	2,608,228
3	インド	2,534,254
4	中国	2,539,009
5	サウジ・アラビア	2,004,700

出典: エチオピア投資庁
(1992年7月-2011年4月の登録資本)

- 過去10年のFDI額
(百万ドル: 2000-09)



6. 対エチオピア対内投資(主要企業)



- Karuturi社(インド:花卉及び砂糖)
- Midroc Ethiopia社及び系列会社(サウジ:ホテル・農業・建設・製造・鉱業・医薬品・大学等)
- Diageo社,ハイネケン社(英、蘭:ビール)
- アイカ社(トルコ:繊維)
- Huajian社(中国:革靴)



(左からKaruturi社により生産されたバラ、Midroc社投資のSheraton Addis)

7. 新5カ年開発計画: GTP(概念)



- **GTP = Growth and Transformation Plan**
→「成長と改革のための戦略」
- **期間**: 2010/11-2014/15
- **GTPの背景にあるビジョン**:「2020-23年までに、中所得国入りを目指す」
- **大目標**:「貧困削減を目指した、包括的、速く且つ公平な経済成長の持続」
- **二本柱**:食糧自給体制の確立と工業基盤の整備。更に、三本目として、大規模なインフラ整備。

7. 新5カ年開発計画：GTP（セクタ-別）



- 主要目標値（基準値との比較）

	PASDEP	GTP		
	05/06-09/10年 基準値	10/11-14/15年 目標値（基本 ケース）	10/11年 目標	10/11年 実績
実質GDP 成長率	11.0%	11.2%	11.0%	11.4%
農業	8.4%	8.6%	8.5%	9%
工業・産業	10.0%	20.0%	14%	15%
サービス業	14.6%	10.6%	12.5%	12.5%

7. 新5力年開発計画:GTP(工業)



● 優先セクター(8)の目標値

	基準値 (09/10年)	目標値 (14/15年)	1年目 目標	1年目 実績
繊維製品輸出額 (百万ドル)	21.8	1,000	100	62.2 (62.2%)
皮革製品輸出額 (百万ドル)	75.73	496.87	190.5	104.1 (54.6%)
砂糖生産量 (千トン)	314.5	2,250	380	280 (73.7%)
セメント生産量 (百万トン)	2.7	27	9.34	6.45 (69.1%)
医薬品輸出額 (百万ドル)	1	20	2	6.92 (346%)
農産加工品輸出額 (百万ドル)	35.2	300	82	34.5 (42.1%)
化学肥料供給量 (千トン)	820	1,665	954	818.05 (85.8%)
金属加工総付加価値 (10億ブル)	6	101.4	20	n/a

7. 新5カ年開発計画:GTP(インフラ)

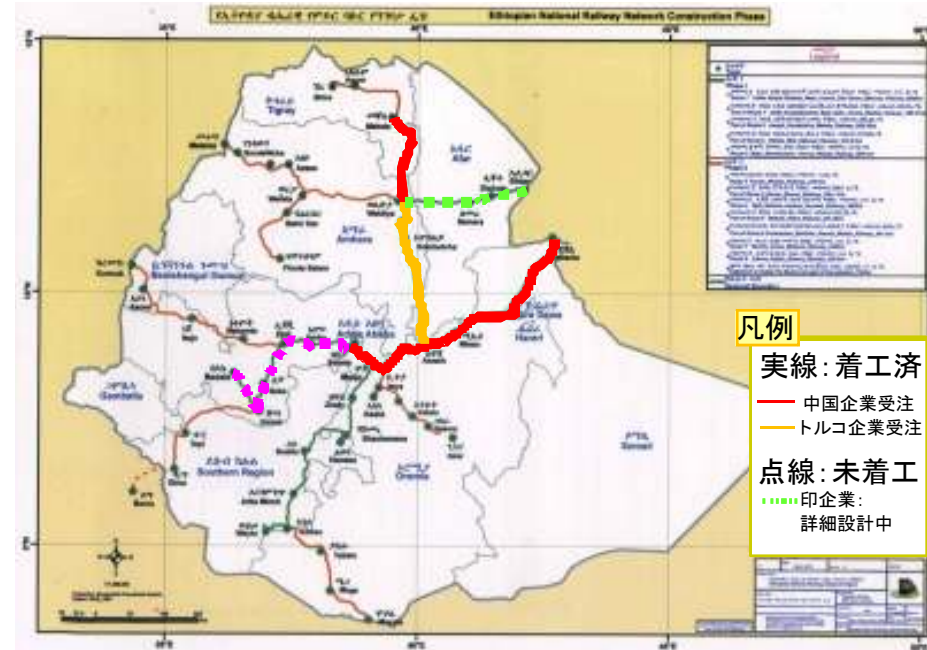


● インフラ分野の目標と実績

	基準値 (09/10年)	目標値 (14/15年)	1年目 目標	1年目 実績
道路総距離 (1,000km)	48.8	64.5	51.0	52.0 (100.7%)
道路密度 (km/1,000km ²)	44.5	123.7	55.6	48.1 (86.5%)
鉄道総距離 (km)	0	2,395	493	0
電力サービス範囲 (%)	41	75	50	46 (92%)
電力生産量 (GWh)	7653	32656	7923	7761 (80%)
携帯電話普及率 (%)	8.7	45	11.9	12.9 (100.7%)
携帯電話利用者数 (百万人)	6.52	40	—	10.7
上水アクセス率 (%)	68.5	98.5	75	73.3 (97.7%)

7. GTP一年目の実績:インフラ

● GTP(鉄道:整備計画路線)



7. GTP一年目の実績:インフラ

- 道路建設状況



-



8. 市場としてのエチオピア



- 82百万人の人口。生活水準は低いが、高い成長率。日用品の多くを輸入に依存。
- 大規模なインフラ整備、工業基盤整備に伴い、機械・資機材等の大きな需要。恒常的な輸入超過。
- 輸入に伴うロジスティックスに難あり。
- 日本企業にとってビジネスチャンス＝車両、建機、農業機械、発電機、タービン、送電システム、医療機械、通信機器、コンピューター・ネットワーク・システム等。

9. 投資先としてのエチオピア



- 工業基盤の整備はGTPの柱の一つ。8つの優先分野を選定。何れもエチオピア国内に原材料があり、高度な技術を要しない、労働集約産業。
- 外国企業による直接投資を奨励。技術移転や労働者のキャパビルを期待。J/Vは義務化せず。
- 投資企業、特に輸出企業には、税や関税でインセンティブを付与。
- 地代や光熱費の安さも魅力。
- 日本企業にとって検討に値する投資分野＝花卉栽培等、食品、繊維、皮革、肥料、農業機械。

10. 対エチオピア投資事例 (Ayka)



- トルコ企業、従業員6000名(内トルコ人160名)
- 経営体制:原料(綿等)から製品パッケージまで一環処理。紡績、織機、染色、裁断、縫製、包装、ラベル印刷等を全て内製化。近代的機械装備。
- 販売先: 製品全てをドイツ等へ輸出。11百万ドルの製品輸出/年
(当国繊維輸出総額の87%)
- 労務費: 給与450ブル(約2050円)/月、97%が女性、食堂(昼食)、通勤バス運行及び医療施設を無償提供。
- 投資理由: 低コスト、インセンティブ、労働者の質。



(左からAYKA社の外観、内部、開業式典様子(メレス首相臨席))

10. 対エチオピア投資事例(Huajian)



- 中国企業、従業員800名(内中国人180名)
- 約3ヶ月間で工場設立準備、生産・輸出開始へ。
- 設立に先立ち、86人を中国にて研修(頭の切り替え、技能習得)
- 販売先: 100%輸出。米国(Calvin Klein等へ納入)。
- 投資理由: 生産コストの削減を求め海外進出(最初の海外工場): 中国に比較し約10%コスト削減達成。労務費が中国の1/7程度。
- 更に生産施設を拡充する方針(広大な土地を確保済み)



11. 何故今エチオピアなのか？



5つの利点

- 安価で豊富な労働力（勤勉且つ教育・訓練効果あり）
- 安い地代（土地は原則連邦政府所有）と電力料金
- 税制上の優遇措置（法人税、関税）
- 相対的な治安の良さ
- 温暖な気候と風土



12. 今後の課題



外国人が不便に感じる事項

- 金融規制：外国系金融機関がない。外貨取引に制約。
- 内陸国：港へのアクセスが悪い。輸送・取引コストが高い。⇒改善策を模索中。
- 情報アクセス（通信）が弱い⇒改善途上。
- マクロ経済運営：高いインフレ率（2008、2011-12年）。
- 弱い民間部門：公的部門が大きく且つ強い。新規起業のハードルが高い。
- インフラ整備が不十分⇒GTPの実施を通じ改善努力中。

13. 終わりに



- ご静聴、有り難うございました。
- アジス・アベバご来訪の際は、是非大使館にもお立ち寄り下さい。日本企業の当国でのビジネス展開をお手伝いします。

